

10月中下旬頃にみられるブロッコリー花蕾の病害



1. ブロッコリー軟腐病

はじめ花蕾表面の黄化として現れ、しだいに褐変腐敗します。内部には深く侵攻して花茎内は空洞化します。特有の軟腐臭と、泳ぎ回る運動性の細菌が特徴です。

病原菌は通性嫌気性（嫌気的環境でも好気的環境でも生育できる）であり、表面からの見た目よりも、内部の腐敗空洞化が進行しています。

2. ブロッコリー菌核病

軟化腐敗しますが悪臭は発生しません。白色綿毛状の菌糸を生じ、被害組織中に大型の菌核を形成して、伝染源になります。

一つの被害花蕾中（中図）に多くの菌核（右図）が形成されます。かなり腐敗の進行したものでも、軟腐病のような悪臭を発することはないので、菌核を掘り出してみてください。



3. ブロッコリー黒すす病

はじめ花蕾の黄化が円形に拡大し、次第に中央部が黒変陥没してきます。黒変腐敗部だけでなく、黄化部にもアルタナリアの分生子が形成されています。被害花蕾の断面をみると、黒変はくさび状に深部まで侵攻しています。

病原菌のアルタナリア・ブラシキコーラはアルタナリア属菌としてはビーク（先端の突出部）が極めて短く、突起状であるのが特徴です。

